



町議会 9月定例会が9月5日から21日まで行われます。定例会の一般質問で下伊那阿智村にある「満蒙開拓平和記念館」の自治体パートナー制度（※）について町に聞いてみたいと思います。その関連で池田町での満蒙開拓団に送り出された方の状況を池田町誌歴史編Ⅱ（近代～現代）で調べてみました。

※ 満蒙開拓は1936年（昭和11年）の国策「満州農業移民100万個移住計画」により全国で約27万人が渡満しました。長野県は全国一の30,864人を送り出し、ソ連軍侵攻などにより15,102人の死亡者を出したと言われていています（信濃毎日新聞社編「この平和への願い 長野県開拓団の記録」より集計）。「満蒙開拓平和記念館」は満蒙開拓の歴史を扱う日本で唯一の資料館で、2016年11月には上皇ご夫妻も訪問され、3人の開拓団員と懇談されました（河野村開拓団の集団自決から息を吹き返した久保田さん、豊丘村、当時86歳など）。

自治体パートナー制度では、一口年5万円の協力金を支払えば、設定された期間（例 中信地区：2023年2月20日～2月26日）での町民の入館料が無料となることや記念館の資料提供や映像・パネルの貸出しを受けられます。長野県や県内30市町村がパートナーになっています。

《池田町関連（池田町、会染村、七貴村、陸郷村、広津村）の入植者の生死》

		帰国	現地残留	死亡（死亡率）	不明	未記載
・一般開拓団36家族	130名	51名	2名	77名(59.2%)		3名
・義勇隊開拓団	92名	62名	1名	25名(27.2%)	1名	
計	222名	113名	3名	102名(45.9%)	1名	3名

【感想】池田町で満州に渡った満蒙開拓団員は222名もおり、そのうちの約半数の方が帰らぬ人となったこと知り、その数の多さに驚かされました。原因は栄養失調、病死、爆死など、改めて戦争の悲惨を知りました。パートナー制度に加入することは過去の歴史を学ぶ機会となり、平和の町づくりに繋がると思います。

《参考までに町誌に記載されていた開拓団の追想記を記します。》（紙面の関係で省略した箇所もあり）
満州開拓勤労奉仕隊追想記 橋場時子（旧姓小山）

出典：池田町町誌歴史編Ⅱ（近代～現代）195～196頁

（昭和20年）8月7日頃だった。三江省にソ連軍が宣戦布告と共に進撃するというので、身のまわりを軽くして駅まで急行する。取り入れも間近い作物を捨て、せきたてられて農場を後に、病人は大車に乗せ、全員歩いて雨の中を出発したのです。汽車に乗らなければ歩くのだと言われ、ぬかるみに靴をとられ、素足のまますべり転び必死の思い出駅に着いてみればもう汽車は来ていました。

私たちはそのままハルピン郊外の義勇隊の訓練所へ拘留され一年中、豆炭を石炭がらで作って越冬の準備をしました。

ソ連軍と満人の掠奪、女は髪の毛を切り丸坊主になり身を守って一日も早く故郷に帰る日を待ち望んでいた。

冬の寒さと栄養不足で小さい子ども達、全部病気で死んでいく。私達並んで寝ている間に順にパラチブスに罹り、ばたばたと死んでいった。寒くなるにつれ死人が増すばかりなので、本部の人達は土が凍らぬうちに墓穴を何百と掘り、誰れ彼れなく順々に土葬されていった。隊員も次から次へとチリ紙で作った花にかざられて葬ったのです。

（昭和21年）8月のなかば帰国命令が出され、収容所を後にし、汽車に乗ったり、野宿をしたり満人の船で何人かずつ向岸に着いた。無事にコロ島に集結され、今度は米軍にDDTを身に振りまかれ乗船を待った。お金も一銭もない私は、万年筆や着る物で交換してさつま芋を買って食べた。帰国船は白龍丸。